

開発と権利のための 行動センター

Centro de Acción para el Desarrollo y el Derecho -CADE-

できることはきっとたくさんある



「人々の権利の尊重」

「公正かつ多様性を尊重した開発の実現」

「環境保全」

行動センターは上記の方針で現地支援や情報収集・分析・発信を行っています

現地での活動実施のため
また国内向けの情報発信のための
ご支援をお願いします。

< グアテマラの先住民族の人たちとのつながり >

< 森の守り人 > アソシエーションがさらにつながって地域連携体を組織

アソシエーション・イロル・キチェ (Asociación Iloil K'iche': AIK <森の守り人>の意)はイサバル県のリビングストンのシエラ・デ・サンタ・クルス地域で活動する地域の住民組織です。開発と権利のための行動センターでは立ち上げ当初からこの地域での活動を続けています。



この地域での活動は順調に展開し、AIK は活動の主体性を高めるとともに、新しい方向に向かいつつあります。

最も重要な動きは、シエラ・デ・サンタ・クルス地域の4つの住民組織の連携が動き始めていることです。この動きは2008年2月に地域内の2つの住民組織の連携準備のための会合を開催したことから始まります。ここで2つの住民組織 AIK と Aj Awinel の連携の動きが始まります。2009年11月からは2組織ではなく、Cerro1019 と APIDH の4つの組織の連携会議を開催してきました。この中でそれぞれの組織は自然保護区の問題にとどまらず、土地問題や地域開発の問題についての取り組みを共有し、地域開発に協同して取り組んでいく方向性を固めつつあります。更に、会議を通じてシエラ・デ・サンタ・クルス先住民族組織コーディネーターを設置し、継続的に連携のための会議を開催しています。

全体で100コミュニティもが参加する地域住民組織の協力関係は、地域開発に重要な役割を持つこととなるでしょう。重要なことはこうした動きが「地域住民のイニシアティブ」によって生まれていることです。

行動センターではプロジェクトの一環として、会議の開催を支援してきていますが、その実施はAIKが調整し、会議の内容はAIKやその他の住民組織が考えながら進めています。既に連携の動きは独自の歩みを進めており、会議を設定し、行動センターでお願いしてきたアドバイザーにも直接連絡を取り、会議への参加を要請し、謝礼も自分たちで支払っています。また4組織の代表が集まって、首都で議員と交渉するという取り組みも行われています。

今後、地域住民の組織が十分に力を持っていることを示し、首都のNGOを介してプロジェクトが実施される



のではなく、**地域にむけられるべき資金が直接、地域の住民組織に向けられ**、また地域開発についての議論を進める際にも、住民の声をしっかりと取り入れるように要求していこうという方向で活動が続けられています。



<プロジェクトの立ち上げからの流れ>

イサバル県での活動は 2000 年に日本ラテンアメリカ協カネットワーク のプロジェクトとして始まり、2004 年から行動センターが実施しています。土地問題解決のために活動していた先住民族組織である CONIC とこの地域のルーベル・カカオ村を訪問した際に保護区との問題を聞かされ、それ以来、保護区の問題に取り組んでいくために、コミュニティの強化や持続的な農村開発のための支援を続けてきました。

シエラ・デ・サンタ・クルス地域は自然保護区を設置するという名目で、25000 ヘクタールもの土地の所有権を政府から無償で得た環境 NGO と、それ以前から土地登記の手続きを進めていた先住民族コミュニティが対立していました。コミュニティはこの環境 NGO と交渉し、部分的な土地所有権を確定するとともに、2004 年にはサンタ・クルス北部地域のコミュニティが参加して、「コミュニティ間調整会議」を設置しました。この調整会議は、サンタ・クルス北部地域における自然保護区制定を進めたい環境団体の意向を強く受けて設置されたものでしたが、私たちは地域住民の主体的な参加と決定に基づく、本当にコミュニティによる組織となっていくことを願いつつ、この会議に対し、組織強化のための活動などを実施しました。

この調整会議を母体として、2007 年に 20 コミュニティが参加して AIK が結成されました。AIK は自然保護区の管理だけでなく、先住民族のアイデンティティーに基づく、持続的な開発を目指しています。しかし先に挙げた環境 NGO は「プロジェクト」を実施することにばかり関心があり、AIK の組織強化には十分取り組むことがなく、結果的に地域住民は何がどう動いているのかよくわからないままに「プロジェクト」を受け入れるばかりになっていました。また保護区設置に向けてのプロセスからも住民は排除されたままです。

行動センターではこうした状況に対して、地域のコミュニティや住民組織がその組織を強化し、主体的に自分たちの自然資源を管理し、利用していく力を持つこと、そして外部の NGO などと対等に交渉していく能力を高めることが重要だと考えて活動を行ってきました。

AIK のメンバーに対して、隣のペテン県で持続的な森林資源利用に取り組む住民組織や自然保護区の管理に取り組む住民組織を訪問してその経験を学ぶ機会を提供し、またケクチ語を



話せる専門家を頼んで AIK の運営委員に対する研修を行ってきました。2008 年 2 月にはペテン県の ACOFOP (ACOFOP はコミュニティで森林利用権を受けて持続的な森林利用に取り組んでいる住民組織です)、12 月には同じくペテン県のピオ・イツァ・アソシエーション(ここは住民組織によって保護区の設置や環境教育、エコツアーなどに取り組んでいます)、また 2009 年 2 月にはイサバル県のアク・テナミット(ここは教育やエコツアーなどに取り組んでいます)などとの経験交流を行いました。

- 地域に力を蓄えるために -

地域に存在する様々な組織を結びつけ、お互いに支え合っていける関係性を作ること、「**地域に力を蓄えること**」が重要だと考えています。地域内に存在する知恵や経験が結びついていくことで、外部の人たちに頼らなくても次の一步を踏み出すことができます。

更に 2009 年の 10 月からは、運営委員が独自に組織を運営していく力をつけるために、計画立案とモニタリングへの支援を行っています。これは、運営委員が毎回の会議の際に活動計画を策定し、それに従って活動した後に、次の会議の際にどこまでできたのか、どんな問題があったのかを共有しようという活動です。また活動を具体的に実施する中で、コミュニティとの関係も改善されてきました。こうした活動を通じて、代表任せの組織から、運営委員のそれぞれが参加して、活動を築いていく組織へと変わりつつあります。このプロジェクトの動きは既に私たちの手を離れつつありますが、あと 1 年間、動きを見つめながらフォローしていきたいと考えています。(運営委員強化はかながわ民際協力基金、地域連携はアークスの助成金を受けています)

< 開発と権利のための行動センターのこれからの支援活動 >

- 1) サラストゥン保護区での環境 NGO と住民組織による協同管理の事例を共有する集会
ここには 4 つの住民組織に加えて、政府機関、ドナーなどへも参加を呼びかけています。
- 2) 4 つの住民組織の連携を支援するため、調整会議の開催経費支援
- 3) AIK の運営委員強化のための活動

活動支援へのご協力をお願いします。

支援金は研修 / 会議 / 経験交流などの諸経費(交通費、宿泊費、研修講師料など)に使わせて頂きます。

<先住民族の権利確立に向けて - 先住民族法についてのワークショップ>

2009年、グアテマラの先住民族諸組織（CONIC、Moltoj、Defensoria Maya）と人権団体である CALDH によって「先住民族法」の法案が作成され、4月22日議会に提出されました。これに伴って、4つの組織では議員への働きかけを進めるとともに、先住民族諸組織や地域の住民組織への広報・啓発活動を進めてきました。

開発と権利のための行動センターでは、「庭野平和財団」の助成金を利用して、CONIC とともに先住民族法について各地でワークショップを開催してきました。8月6日に首都で CONIC のリーダーを対象に開催したのを皮切りに、8月27日にチキムラ県の Choltey 民族組織、9月9日にはアルタ・ベラパス県、9月24日にサン・ファン・サカテペケス、11月19日にはサン・マルコス県の先住民族組織である Ajchimol とワークショップを行ってきました。

法案策定プロセスにおいて、もっとコミュニティとの協議を進めるべきであったという声もでていましたが、この法案をきっかけに、先住民族の権利を確立するためにどのような法律が必要なのかについて議論が深まり、今後の法案審議に向けて重要な一歩となりました。

このテーマについては、今後の現地での進展を見守りたいと思っています。

<キチェ県北部イシル地域における、先住民族組織間の連携強化>

「アーユス仏教国際協力ネットワーク」の「パートナーシップ支援事業」の助成金を受けて実施している「グアテマラにおける『先住民族の自然資源への権利』に関わる住民組織強化およびネットワーク強化支援」のプロジェクトの一環として、キチェ県で活動を展開しています。

キチェ県北部のイシル地区は内戦時の弾圧が最もひどかった地域の一つでもあり、また遠隔な山間地であり開発からも取り残されています。また現在、水力発電ダムの建設計画があちこちで進められています。しかしながら地域の先住民族にはほとんど情報が届けられることもなく、政府の意向で一方的に計画が進められつつあります。こうした中で、地域の三つの自治体を含むイシル民族のテリトリーにおける様々な組織間の連携を強化し、情報を共有するとともに、協力して問題に対処していくための取り組みを支援しています。

一年ほどプロジェクトは中断していましたが、2010年から再開します。

アーユス仏教国際協力ネットワークの「パートナーシップ支援事業」の助成金では、イサバル県でのプロジェクトの「連携強化」部分も支援いただいています。

< コッツアルのイシル民族の若者たちとのつながり >

キチェ県コッツアルの若者グループとの出会いは 2008 年の5月のことでした。別のプロジェクトで訪問していたネバでコッツアルの若者たちの状況を知り、生まれたばかりの地域の若者組織 CONJUPAZ (Coordinadora Integral de la Juventud Maya Cotzalense por la Paz : マヤ・コッツアルの若者たちの平和のためのコーディネーター)の活動を支援していくこととしました。

グアテマラのキチェ県北部のイシル地域にあるサン・ファン・コッツアルは、36 年間にわたる内戦の被害がもっとも大きかった地域の一つです。地域社会は分断され、政府軍による弾圧が繰り返られました。内戦終結から 10 年以上経ちますが、暴力によって支配された時代の傷口はいまだ癒されてはいません。更に数年前から”マラス”と呼ばれる若者グループによる暴力が大きな問題となっています。若者たちが行き場がなく、暴力に走る背景には教育や就職の機会が限られていることなど、グアテマラ社会の先住民族に対する差別の問題とも深く結びついています。

こうした中で、コナビグア(連れあいを奪われた女性たちの会)による、青少年への人権教育やエンパワーメントのための研修に参加した若者たちが集まり、自分たちの地域社会の問題解決に貢献し、また地域社会の中での参加のスペースを広げていくために、地域の若者たちによる組織を結成しました。こうして生まれたのが CONJUPAZ です。

初年度に CONJUPAZ に対して活動支援用の PC を購入した後、Cotzal の治安状況を見つつ、CONJUPAZ とも今後の活動について意見交換を重ねてきました。

2009 年に入り、Cotzal のマラスが解体されたことを受けて、開発と権利のための行動センターでは CONJUPAZ とともに若者向けの PC 研修を実施することとしました。2009 年 10 月～ 2010 年 5 月の間、計 48 名の若者たちに対して、一回 2 時間、計 14 回の PC 研修を行っています。小学校を出たけれども仕事がない若者に対する職業教育として、また地域の若者グループの組織強化の一環として研修を行っています。

(このプロジェクトは「世界の若者たちのための JICA 基金」の助成を受けています)



つながっているんだから、つながっていかなくちゃ
<中南米や世界の人たちとつながっていくために>

<人権侵害への抗議行動など>

- 2009.2.4 グアテマラにおける人権侵害に対する緊急行動
ウエウエテナンゴ県サン・イデルフォンソ・イシュタワカンにおいて、グアテマラの先住民族組織であるモホマヤスの若者2名が殺害された事件に対して
- 2009.6.10 ペルー・アマゾン地域における先住民族の運動弾圧に抗議声明
- 2009.11 チッタゴン丘陵和平協定を求める世界同時キャンペーンへの協力
- 2009.11 パナマにおけるナソ民族の強制排除への抗議行動

<何が起きているのか、もっと知るために>

南米連続勉強会、行動センター、日本ラテンアメリカ協力ネットワーク(RECOM)、先住民族の10年市民連絡会との共催。勉強会の報告は RECOM のニューズレターに掲載

- 2009.2.21 南米連続勉強会 第1回 エクアドル 講師 新木秀和
- 2009.3.14 南米連続勉強会 第2回 ボリビア 講師 藤田護
- 2009.4.25 南米連続勉強会 第3回 コロンビア 講師 千代勇一
- 2009.5.13 南米連続勉強会 第4回 コロンビア 講師 柴田大輔
- 2009.5.23 南米連続勉強会 第5回 ペルー 講師 岡田勇

その他の勉強会、報告会

- 2009.4.8 グアテマラ 勉強会開催 RECOM との共催
- 2009.6.7 報告会:「コロンビアの先住民族の人々とともに」 講師 柴田大輔 横浜市にて
- 2009.9.12 コロンビアの先住民族とビデオ制作(講師:シネミンガ、溝口さん、カルロスさん)
- 2009.12.6-12.13 「戦時性暴力の被害者から 変革の主体へ---グアテマラ先住民族女性の声を聞く---」 開催協力
- 2010.2.25 南米報告会 難民となったコロンビア先住民族の現状と課題 講師 柴田大輔
- 2010.3.17,19 債務、貧困、気候変動-
変革が進む南米エクアドルは地球規模の課題にどう取り組むのか
ジュビリー・エクアドルのデルファ・マンティージャさんに聞く

< 発信 >

2009.2.5 国際交流基金「異文化理解講座：農産物で見る中南米」にて講演

2009.2.14 先住民族の10年市民連絡会ニュースレターにパナマの先住民族に関する記事掲載

2009.5 JP通信156号に「新しいボリビアを目指す新憲法の公布」寄稿

2009.12 かながわ民際協力基金ニュースレターへの掲載

2010.2 JICA 広報誌、JICA's World にてグアテマラでの活動紹介

見えてこない結び目をあらためてつなぎ直し、

「思い」をつなげることを通じて、新しい世界を生み出していくために

< ブログによる情報発信 >

行動センターではブログや HP を通じて中南米の先住民族運動や環境運動に関する情報発信を進めています。 <http://cade.cocolog-nifty.com/ao/> 最近はグアテマラだけではなく、エクアドル、コロンビアなどの情報の発信も続けています。

またメール会員の数も増加しており、現在 50 名ほどがメーリングリストに参加しています。

参加者による投稿や転送を通じて、ネットワークが広がりつつあります。

< 国内活動 >

水と大地のネットワークでは次のような活動を行いました。

2009.2.28 特別セミナー：地域の元気で温暖化を防ごう！

「地域の資源を利用した小規模水力発電の可能性 - 地域の電気と元気で自立した地域社会を目指す。」 高知県梶原(ゆすはら)町 にて開催

2009.5.30 「水と大地のネットワーク」& 全国小水力利用推進協議会 公開シンポジウム

『小水力の魅力と高知県の可能性 梶原町の経験から』 高知県高知市にて開催

2010.3.20 兼山の「水の仕事」を、今に活かす

- 温暖化防止に挑む「地域の力」、「水の力」 -

2010 年 2 月より、水と大地のネットワークは、独立した組織として活動を展開していくこととなりました。開発と権利のための行動センターでは今後も活動を支援していきます。

ブログ発信記事一覧(2009年1月以降分): タイトル一部短縮 イベント案内等一部削除

- ・<2010年3月>
- ・グアテマラ:先住民族の権利確立を求める国連諸機関
- ・パナマ:ダム建設の危機にさらされるナソ民族
- ・ハイチ:米州開発銀行は債務取り消しで合意
- ・震災後のハイチの状況について
- ・3/17 & 3/19 & 3/23 ジュビリー・エクアドルのデルファ・マンティージャさんに聞く
- ・アフリカの水と大地を奪うバイオ燃料
- ・Los Campos de la Muerte/ Killing Fields
- ・資料紹介:中南米 - 先住民族関連
- ・大豆生産や鉱業に土地を奪われるアルゼンチンの農民や先住民族
- ・<2010年2月>
- ・アルゼンチンにてバイオ燃料混合の義務化が始まる
- ・メキシコ:チアパス州で、環境保護区からの農民排除
- ・グアテマラ:憲法裁判所は先住民族への協議を要請
- ・ハイチ:米国・軍隊・緊急援助
- ・アフロ・コロンビアに対する土地からの排除に警告
- ・2/26 南米報告会「難民となったコロンビア先住民族」
- ・ハイチの債務免除へ
- ・ブラジル:アマゾンに更なる巨大ダムを認可
- ・カナダの鉱業開発に関する最高裁判決と反響
- ・<2010年1月>
- ・JICAのニュースレターで紹介されました
- ・ハイチへの誇りと希望(ハイチ前首相 ミッシェル・ピエール・ルイ)(翻訳)
- ・ピエール・ルイ氏へのインタビュー記事(翻訳)
- ・行動センターのプロジェクトが紹介されました
- ・アムネスティの声明(転載) ハイチ:救援活動には人権の保護も伴うべき
- ・緊急援助の動向他:ハイチでの大地震(1/17続報)
- ・エクアドル:アマゾンの森を守る取り組みは頓挫するか
- ・<2009年12月>
- ・グアテマラ:内戦時の強制失踪で軍高官に有罪判決
- ・パナマ:ナソ民族に対する米州人権委員会の勧告
- ・<2009年11月>
- ・チリ:9月15日にILO169号条約が発効したが、協議に関する法令に疑問が呈される
- ・パナマ:強制排除に、国連の先住民族の権利に関する特別報告者・ジェームズ・アナヤ氏が懸念を表明
- ・グアテマラ:ケクチ民族はエル・ボルカン水力発電を拒否する!
- ・パナマ:ナソ民族のコミュニティで再び強制排除
- ・「持続可能なパームオイル円卓会議」を考える
- ・オイルパームプランテーションは持続的にはなりえない
- ・大串和雄氏講演会から:「民主化・内戦後の司法に課せられるもの」
- ・チッタゴン丘陵和平協定を求めるキャンペーン
- ・パラグアイ:先住民族に対して農業散布 - 大豆生産地の拡大を狙ったものか
- ・グアテマラ:農村部で並行的な権力が力を増す
- ・資料紹介:先住民族の権利
- ・ペルー:イナンバリにおける水力発電ダム建設計画
- ・米州人権委員会がIIRSAについて特別公聴会
- ・グアテマラ:鉱山開発を拒否 - クネンでの住民協議
- ・グアテマラ: CIGIG について 追加説明
- ・<2009年10月>
- ・グアテマラ:免責に対する国際委員会、活動家殺害事件の調査に乗り出す
- ・食料への権利に関する国連特別報告者 種子に関する知的所有権の法的扱いの変更を求める
- ・バブア・ニューギニアのツナ(マグロ)加工工場建設への抗議運動
- ・「協議」:先住民族の権利に関する国連特別報告者
- ・グアテマラ:村の平和を取り戻すために
- ・ニカラグア:第2回先住民族女性フォーラム
- ・先住民族の抵抗の日
- ・エクアドルの水法案について(10/19追記・修正)
- ・グアテマラ:エル・エストールで、鉱山会社と衝突
- ・エクアドルで先住民族と警官隊の衝突
- ・<2009年9月>
- ・「植林モルカルチャーに反対する国際デー」への声明文
- ・ボリビアとパラグアイのチャコ地方の先住民族の状況についての報告書公表
- ・ホンジュラスで大統領選挙に向けての選挙運動開始
- ・<2009年8月>
- ・9/12 コロンビアの先住民族とシネミンガの活動
- ・<2009年7月>
- ・グアテマラ:排除のために使われる「開発」と主体的な開発を目指す取り組み
- ・鉱山開発に立ち向かうグアテマラ先住民族
- ・グアテマラでのプロジェクト調整作業
- ・<2009年6月>
- ・ペルー続報(6/12追記)
- ・ペルーにおける先住民族運動への弾圧に対して
- ・ペルー:アマゾン地域における衝突を巡って
- ・ペルー:アマゾン先住民族と警察の衝突で多数の死者
- ・映画化された The End of the Line / 「飽食の海」
- ・<2009年5月>
- ・ペルー・アマゾン地域で続く先住民族の抗議行動
- ・6月7日「コロンビアの先住民族の人々とともに」
- ・ペルー関連資料紹介
- ・ホンジュラス:ガリフナ民族の食糧と協議への権利
- ・カナダの先住民族がエクアドルで鉱業振興?
- ・4月8日のグアテマラ勉強会から
- ・アルゼンチンにおける農業被害について
- ・バイオ燃料関連 資料等の紹介
- ・<2009年4月>
- ・パナマ:ナソ民族の権利の尊重を求めるネット署名
- ・コロンビアにおける土地からの排除と国内難民化
- ・コロンビアの状況について(リンク紹介など)
- ・パナマ:ナソ民族が土地から排除される
- ・中南米の先住民族の状況について - サイト紹介
- ・なぜかグローバルな動きの外にいるサケ養殖の問題

- ・コロンビア: 気候正義とローカルなオータナティブ
- ・高知県梶原町での小水力セミナー報告
- ・グアテマラ: 先住民族の権利法制定への取り組み
<2009年3月>
- ・グアテマラ: 鉱業法・鉱山による健康被害
- ・グアテマラ: 内戦が終わっても、いまだ「戦争中」なのか
- ・エクアドルの環境団体に対して政府の圧力
- ・グアテマラで大規模開発の背後に潜む殺人グループ
- ・グアテマラの悪化する治安状況を前に、再び広がりがつつある軍の影
<2009年2月>
- ・パナマ: 先住民族の集団的土地所有をめぐる
- ・地域の元気で温暖化を防ごう！高知県梶原町
- ・温暖化対策に関係する問題: メキシコ他

- ・バイオ燃料: ミンダナオ、FAO 他
- ・WWF が進める水産養殖認証に批判の声
- ・グアテマラ: ラグーナ・デル・ティグレ公園における衝突
- ・パナマ: 先住民族と開発
- ・ボリビア新憲法概要
- ・ボリビアで先住民族の権利を広範に認めた新憲法
- ・生物資源略取に対抗するペルー地方政府の取組
<2009年1月>
- ・グアテマラにおける暗殺事件: 声明文
- ・グアテマラ: 鉱山開発に抵抗してきた活動家殺害
- ・ナソ民族のコミュニティが牧畜業者に破壊される
- ・大豆生産に追われるアルゼンチンのウィチ民族
- ・追記 1/21 エクアドル: 1月20日に新鉱業法案に対して大規模な抗議行動

＜皆様へ 行動センター理事 青西靖夫＞

行動センターの**グアテマラ**でのプロジェクトもこれから1年間の活動で一段落つくことになりそうです。イサバル県での活動は個人的には10年を超えるものとなり、思い入れもあるのですが、特にここ数年の飛躍には驚かされています。このパンフでもだいが長く書かせていただきましたが、今年中にはこれまでの歩みをちゃんと整理したいと思っています。

昨年度開催した南米勉強会は行動センターのネットワークを広げ、情報発信面での活動を行っていく上で、非常に役に立ちました。講師の皆様にはあらためてお礼申し上げますとともに、是非またお話を聞かせていただければと思っています。

特に**エクアドル**については、昨年の勉強会から今年3月のデルファさんによる講演会まで、つながりはどんどん広がりがつつあります。今年はエクアドルの状況を継続的にフォローできるような仕組みを考えていきたいと思っています。エクアドルの画期的な新憲法をどのように実現していくのか、政治と社会運動の取り組みを見つめていきたいと思っています。残念ながらエクアドルには行ったことがないのですが、直接現地の組織などから話を聞きたいものです。

ブログでは**ハイチ**の震災以降、わずかですがハイチの状況もフォローしました。1994年にハイチを訪問して、街角や市場の雑踏のなかで食べたハイチ料理が忘れられません。一日、ずーっと市場のおばちゃんの前に座り込んで、料理をする様子を見ていたこともありました。しかし今回の震災は、あまりに巨大で、行動センターとして何ができるレベルではないと考え、若干の情報発信のみをさせていただきました。以前、訪日受け入れに協力したピエール・ルイさんの記事もいくつか翻訳して掲載しました。

パナマからは短期間の現地訪問を行って以来、継続的に情報が届けられるのですが、なかなか対応ができないのが歯がゆいところです。少なくとも現地の情報を日本語にして発信し、また人権侵害などへの緊急行動は行っていきたいと思っています。コマルカを求めるナソ民族の訴え

がどう実現していくのか、日本からもできることを探っていきたいと思います。

ポリピアの話は昨年はほとんど取り上げることができなかったのですが、「良き生き方」をどう実現していくのか、地方分権化をどう実現していくのか、今年は私自身学んでいきたいと思っています。

テーマとしては、ダム開発、鉱業開発、大規模農業開発によって引き起こされる問題などについても継続的に発信していきかけたのですが、力足りずというところです。今年は少し大規模農業開発の問題などに取り組み直したいと思っています。

<高知の山村から:行動センター理事 片岡 桂子 (旧姓 栗田)>

2月から異様な暖かさで、3月末に例年のない早さで芽を出し始めた茶畑を襲ったのは遅霜でした。私の住むこの町はお茶の産地ですが、甚大な被害を受け、茶畑の6~7割が一網打尽になりました。ただでさえ価格の下落で苦しい上、山間部で高齢化した茶農家ばかりなので、これでまた放棄茶園があちこちに出現しそうです。

自分の身边が忙しくなって、支援活動に関わる時間もなかなか取れにくくなりつつあります。それでも組織としては、誰かができなくなったら続かない、という状態は好ましくないとは思っていますので、そういう時期があってもよいのかな、とは思っています。気持ちだけは離れないように、と肝に銘じているところです。

が、こう書くとなにやらかこよいのですが、現実には青西さんに任せっぱなしで、申し訳ない限りです。名前ばかりの理事になりつつありますが、可能な範囲でできることがあればと思い、続けています。世界で起きていることは厳しいことばかりで、またそのひとつひとつに目を向けていると軽く許容範囲を超えてしまいます。情けないことに、行動センターで流れてくる情報のみですら、すでに許容範囲超過です。

そんな中でひとつ思うのは、やはり自分の足元を固めておくということ。ここまで国際協力に関わってきていながらも、自分自身がいろんな意味で安定していないと、人のことを思うところまでいかない。まずはしっかり仕事をし、家庭も大事にする。その上で、そこに満足せずに何か自分以外の人のためにできることを、毎日の営みの中で考え続けて行きたいと思います。

そして毎日流れてくる死者の報道。亡くなった人、大事な人を亡くした人、その手で人を殺めてしまった人。そのそれぞれに人生があること。それだけは鈍感にならずに暮らしていきたいと思っています。そして今を生きるひとりひとりにそれぞれの未来があり、希望があることも。茶の芽だって真っ黒に霜に焼けたその中から、あきらめずにまた新しい薄緑色の新芽を吹き出すのですから。

開発と権利のための行動センターの活動にご協力ください

今年は国内の様々な方々の取り組みとうまくリンクして、いろいろな活動・世界各地での運動につながっていきけるような仕組みを作っていければと考えております。多くの皆様と協力していきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

グアテマラ・プロジェクト - 地域のコミュニティや地域の組織が自分たちで解決の方向を探するためのプロセスへの支援

ラテンアメリカを中心とした社会運動とのネットワーク強化・情報発信

< 寄付金・会費の振込先 >

郵便振替口座: 00230 - 5 - 131472 口座名: 開発と権利のための行動センター

ゆうちょ銀行 029店 預金種目 当座 口座番号 0131472

受取人: 開発と権利のための行動センター (カイハツケンリノタメノコウドウセンター)

(会費・寄付金等の用途を明記ください)

< 会員制度と会費のご案内 >

正会員 (会の理念、活動に賛同し、活動を担う会員) 年会費 3000 円

賛助会員 (会の理念、活動に賛同し、会の活動を賛助する会員) 年間一口 3000 円

メール会員 (この会の目的と活動に関心を有する個人) 年会費 任意

上記会員の方には年に 1 回から 2 回の活動報告等の送付を行います。会員向けの特典等は特にありません。

いずれの会員もメーリングリスト等に参加し、メールにての情報を受け取れます。

メール会員希望の方は E-mail にて住所/氏名等ご連絡ください。メーリングリストに登録します。

詳細はブログ・サイトのリンクより確認ください。

開発と権利のための行動センター

〒244-0824 神奈川県横浜市栄区飯島町 2073-2 B 棟 201 号 青西方

E-mail cade-la@nifty.com

URL <http://homepage3.nifty.com/CADE/>